

# 会派調査(研修)報告書

NO.

令和 5年 2月 3日

胎内市議会議長

小野 徳重 様

森本 将司 (報告者) 会派名 政和会

代表者名 天木 義人

会派調査(研修)について、下記のとおり報告します。

調査・研修 日時	自 令和 5年 1月 31日 至 令和 5年 2月 1日 1泊 2日 (2日間)	調査・研修 場 所	宇都宮市：宇都宮市役所 議会棟 鹿沼市：鹿沼商工会議所
調査・研修 事 項	宇都宮市：自転車のまちづくり 鹿沼市：つばさプラン 障がい者の免許取得について		
調査・研修 出席者(参加者)	天木義人、小野徳重、森本将司、坂上隆夫、渡辺栄六(公明党)		
相手方(対応者)	宇都宮市：副議長 舟本肇、経済部都市魅力創造課 係長 蓼沼 秀明、 議会事務局 政策調査課 政策調査グループ 書記 佐藤 真莉乃 鹿沼市：鹿沼自動車教習所 代表取締役 古澤 正巳、専務 佐藤 孝典		

## 調査の結果または概要

### 宇都宮市：自転車のまちづくり

1990年の世界選手権誘致を契機に1992年にジャパンカップサイクルロードレースを創設。1日で行われる自転車レースとしてはアジア最高の格付けがなされている。これまで29回開催されており市街地を走るジャパンカップクリテリウム新設以降は10万人以上が来場している。宇都宮市が主催し予算2億円に対して28億円程度の経済効果の試算がなされている。

市内環境としては自転車走行レーンの整備、気軽にロード仕様の自転車をレンタルできるサイクルステーションの設置、各年代層に合わせた市民向けの自転車イベントを開催するなど自転車の普及啓発に取り組んでいる。

### 鹿沼市：つばさプラン

一般的に免許の取得が困難な発達障害や軽度知的障害の方の取得をサポートする「つばさプラン」を始めた。現在まで429名が受講し413名が卒業している。身分の証明としてのほかに、家族の負担軽減や自信や生きがいとして卒業生からは感謝の声が数多く届いている。

平成30年には「つばさプラン」の全国研究会を立ち上げ、現在まで11社が参加している。

## 調査の所見・感想

### 宇都宮市：自転車のまちづくり

ワンデイレースではアジア最高であり世界の強豪選手が参加しているが、そこに至るまでは多くの障害があり新規参入は難しいと感じた。宇都宮市では1990年に世界選手権が開催されており、日本自転車競技連盟の協力を世界選手権後も継続して受けることができたことが大きいと考える。2005年にはクラス1、2008年にはオークラスにレースカテゴリーが昇格したが昇格のためには、世界の強豪選手に参加してもらうための招待費が掛かるとの事だった。またコースに必要な幅員の確保や道路の封鎖など、ある程度の予算規模を持っている自治体だからこそ可能な事業であると感じた。

### 鹿沼市：つばさプラン

他の教習所では取得ができなかった人に対して手厚いケアを行い、取得に至らせている部分には障がい者を抜きにしても良いサービスだと感じた。しかしながら1名の利用者に対して4名体制を敷くなどある程度、規模の大きな教習所だからこそ可能だと思った。また障がいひとつとっても個性があるため、個々の理解など人的負担は大きい。

全国研究会を立ち上げたが、参加教習所によってはプラン内容が順守されていない問題があるという部分にもそういった負担が繋がっていると思う。

参加費の見直しや、障がい者の免許取得に対する補助が進めば今後、参加校も増加して目標としている国への要望活動も実現に近づいていくと思う。